

政策形成のための歴史統計データ整備について

畑瀬 真理子* (一橋大学)、加藤晴子 (日本銀行)、大貫摩里 (日本銀行)

近年、中央銀行において金融・経済にかかる歴史統計データの公表を拡充する動きがある。創立 200 周年記念プロジェクトとして 12 項目にわたるデータを整備したノルウェー中銀、データの電子化の流れの中で「歴史統計」データの公開を始めた日本銀行等、各中央銀行によりそのモチベーションは異なるが、サブプライム・ローン問題を契機に住宅ローンのリスク評価が近視眼的ではなかったかとの認識が広まったこともあり、政策当局において歴史統計データについての関心が高まっている (Bignon et al. 2022)。

もっとも、中央銀行の設立過程、金融市場、金融機関の発展や当局による金融機関監督体制の発展の歴史的経緯、さらには一国の統治体制の中での中央銀行の位置づけやその変化等を背景に、質の高い信用量、金利等の基本的な統計データを長期時系列で入手することには技術的な困難が伴う。そうした中、政策形成過程における統計データの重要性が高まってきたことも受けて、2016 年に中央銀行および経済史学者が金融関連の歴史統計データの整備と利用について意見を交換し、経験を共有するためのグループ(Central Bank Network on Historical Monetary and Financial Statistics, HMFS)を設立した(Borio 2022)。HMFS メンバーは国際決済銀行 (BIS) の場において議論を重ね、その最初の成果物として、信用量、金利、不動産価格の歴史統計データの整備にあたって必要なノウハウや留意点について取りまとめた BIS ペーパー(Bignon et al.)を公表した。その後、各国の関連する統計データおよびバックグラウンド情報を取りまとめたペーパーが随時公表されている。

本稿は、2023 年 2 月に公表された日本の統計データ等に関するペーパーである。本稿ではバックグラウンド情報として明治期以降の日本の金融制度の発展およびデータの継続性に影響を与える「日本」の領域の変化について述べた後、信用量、長短金利、政策金利、不動産価格についての歴史統計データを関連する制度や市場の変遷と併せて紹介している。また、プロジェクトの成果として銀行・保険会社・ノンバンク等による貸出、長短金利および政策金利、不動産価格指数等、95 系列の歴史統計データを、日本銀行金融研究所のホームページ(<https://www.imes.boj.or.jp/jp/historical/hstat/hstat.html>)で公表している。

<参考文献>

Bignon, V., C. Borio, O Eitrheim, M Flandreau, C Jobst, J Qvigstad and R Thomas (2022): “Historical monetary and financial statistics for policymakers: towards a unified framework”, BIS Papers, no 127.

Borio, C. (2022), “Measuring the past to better understand the present and chart the future: the central bank network on historical monetary and financial statistics, Remarks at the 11th Biennial IFC Conference, Basel, 25 August 2022.